

第3回 城端地域学校のあり方検討委員会（会議記録）

【日時】令和7年10月1日（水）開会：午後7時00分 閉会：午後8時57分

【場所】城端市民センター 3階大ホール

【出席委員】水上 和夫	委員長	松居 裕	副委員長	松本 久介	委員
平田 光津子	委員	松井 渉	委員	神口 美菜	委員
夏梅 紘行	委員	山根 正行	委員	勇崎 香志	委員
稻場 えみ	委員	安居 範光	委員	古軸 裕一	委員
近川 利行	委員	安達 正彦	委員	和田 弘恵	委員
【欠席委員】嶋田 裕樹	委員	山下 茂樹	委員		
【事務局員】教育長	松本 謙一	教育部長 氏家 智伸			
教育総務課長	上野 容男	教育総務課副参事 山本 佳和			
教育総務課主幹	小谷 篤史	教育総務課副主幹 青能 順子			
教育総務課主任	井上 健				

【会議要点】

- ・学校のあり方のパターンについては、継続協議とする。
- ・学校のあり方のパターンのうち、「城端小学校はそのまま、城端中学校を他地域の中学校と統合」に対しては、特に、「通学面での変化に対する見通しが立てづらいため、判断が難しい」という意見が多かったことから、事務局で通学面等のシミュレーション例を提示した資料を作成する。
- ・事務局で当該資料を委員に送付し、送付後1か月を目途に検討委員会を開催する。

【会議記録詳細】

1 開会

2 委員長挨拶

(委員長)

7月に城端小学校と城端さくら保育園で地域説明会を開催し、そこで色々な意見が出ました。その後、色々な所で話合いもされてきたかと思います。

さて、城端地域学校のあり方検討委員会では、小学校と中学校を統合して義務教育学校を新設するのか、それとも、小学校は残して中学校は他地域と統合するのかということについて議論しているところです。

いずれにしても、義務教育学校は一度できてしまえば、9年課程である以上、間違いなく10年以上は続けていかないといけません。やはり、この場でしっかり話し合い、子どもたちのためにどの選択がよいのか、皆さんで話し合って決めていきたいと思います。大いに皆さんの意見を伺い、協議を深めたいと思います。

3 報告事項

(1) 第2回検討委員会（令和7年5月21日）議事録について

(事務局)

- 資料1に沿って説明 -

(委員)

意見なし

(2) 地域説明会の開催報告について

(事務局)

- 事前送付資料に沿って説明 -

(委員)

意見なし

4 協議事項

・学校のあり方案（2パターン）の検討について

(委員長)

前回の検討委員会で、2パターンで検討を進めていくことを決め、そのことを地域説明会でも報告しています。委員の皆さんにおかれましては、主に保護者の皆さんと話し合いをされてきたと思います。どのような意見が出たか、どのような意見が多かったかについて、お互いに理解を深めた上で、皆さんで納得して結論を出したいと思います。

意見のある方から挙手の上、発言をお願いします。

(委員G)

城端小学校PTAです。t e t o r uで小学校の保護者向けにアンケートを取り、全部で168人から回答がありました。結果のみ報告します。

まず、「学校のあり方の検討がされていることをご存じでしたか?」という質問に対しては、「よく知っている」が47人、「少し知っている」が107人、「あまり知らない」が11人、「全く知らない」が3人と、91.7%の方が「よく知っている」又は「少し知っている」という回答でした。

次に、「現時点でどちらの統合案に賛成ですか?」という質問に対しては、「城端小学校と城端中学校を統合して義務教育学校を設置する」が110人、「城端小学校は残して城端中学校は他地域と統合する」が24人、「どちらともいえない」が34人でした。一番多い数字だけを見ると、義務教育学校を設置する案が65%を占めました。

選択した理由も自由記述で書いてもらいましたが、義務教育学校を選択した人は、「通学が大変だから」という理由が一番多かったです。63件の自由記述のうち、43件が「通学が大変になるイメージ」、「雪の日やスクールバスが運行できない日はどうするのか今の段階では分からぬ」というものでした。

前向きな回答としては、「城端地域に中学校を残してほしい」という回答が13件ありま

した。こちらは、「城端が好きだから」や、「地域の行事などを大切にしてほしい」というものでした。少数意見ですが、「15年後くらいに大きな学校統合があると聞いたので、短い期間であれば慣れた城端で過ごすほうがよい」、「どこの地域の学校と統合するか分からぬからこの回答をした」と回答された人もいました。

これらのことから読み取れるのは、「城端地域に中学校を残したい」、「地域行事などを大切にしてほしい」といった理由で、義務教育学校を積極的に賛成した人は2割程度である一方、「ほかの中学校と統合すると、通学時間が長くなつて保護者の負担が増えるのではないか」と考えた人が約7割いて、その結果、消極的な賛成として義務教育学校を選んだ人が多くなつたと思います。

「小学校はそのまま残し、中学校は他地域と統合する」についての自由記述は20件あり、そのうちの半数が、「部活動の選択肢や学校行事、交友関係など、人数が多くなることによるメリットを感じる」ということでした。また、「いずれはどこかの学校と統合することになるため、城端地域も他地域の学校と統合する」という意見が4件、「人間関係を長い期間固定するのはいかがなものかということで、義務教育学校ではなくて他地域の中学校と統合」という意見も2件ありました。

他地域の中学校と統合することを積極的に賛成して選ばれた理由としては、「人数が多くなることにメリットを感じる」という人が半数いました。一方で、「いずれどこかと統合する」や、「人間関係の固定化」を理由として挙げた人が3割いて、その結果として消極的な賛成として、他地域の中学校と統合を選んだ人もいたということです。

「どちらともいえない」は14件あり、一番多かったのが、「メリット・デメリットがよく分からない」というもので、8件ありました。また、「南砺つばき学舎での先進事例を聞いてみたい」という意見や、「小中学校をそのまま残してほしい」という意見もありました。

最後の自由記述では、学校再編に関することなどについて、「再編を実施するに当たり、その期間が明確でないことが大変不安」、「他校と統合する場合はスクールバスが出るかどうか」ということも分かっていないので、具体的な話をしていかないといけない、「これまでの資料や情報だけでは、再編後の子どもの学校生活のイメージがしにくい」、「特に中学校の一日の動きやスケジュールなどを細かく提供いただき、おおよそでよいので登下校の時間などの資料提供をお願いしたい」という回答がありました。

(委員Ⅰ)

中学校も、小学校同様にte to ruで保護者にアンケートを取りましたので、結果を報告します。中学校の保護者約150人のうち、108人から回答がありました。

まず、「学校のあり方の検討がされていることをご存じでしたか?」という質問に対しては、「よく知っている」が26人、「少し知っている」が70人、「あまり知らない」が12人、「全く知らない」がゼロでした。

次に、「現時点でどちらの統合案に賛成ですか?」という質問に対しては、「義務教育学校を設置する」が50人、「他地域と統合する」が22人、「どちらともいえない」が36人でした。

義務教育学校を選んだ理由についてですが、賛成意見としては、「通学距離が短くて保護者の負担が少ない」、「地域で子どもたちを見守れる」、「小学校と中学校の連携で教育がスムーズに行われる」ことが挙がりました。また、「中学校がお手本となることで、小学校の生活態度や学習意欲により影響が期待できる」という前向きな意見もあります。

一方、懸念として、「9年間同じ環境が続くことで、人間関係が固定化しやすく控えめな子どもが発言しにくくなる可能性」や「中学校としての独立性やメリハリが失われのではないか」という意見がありました。また、将来的な人口減少によって義務教育学校を維持すること自体が困難になるかもしれないという指摘もありました。

まとめると、義務教育学校を設置する案は、地域に根差した教育や通学の利便性など多くのメリットがありますが、長期的な人間関係や将来の学校統合の可能性を考えると、慎重に検討する必要があるということです。

次に、他地域の中学校と統合を選んだ理由についてですが、賛成意見としては、「生徒の人数が増えることで部活動や授業の選択肢が広がり、多様な人間関係の中で社会性やコミュニケーション能力を育てることができる」という意見がありました。また、「複数のクラスや色々な地域の生徒と接することで、高校進学後の環境に慣れやすくなる」という意見もありました。

しかし、懸念として、「通学距離が長くなり、送迎が保護者の負担になる」、「地域の行事やイベントが疎かになる可能性がある」、「人数が増えることで個々へのきめ細かい指導が難しくなる」ということが挙げられました。

まとめると、他地域の中学校と統合する案は、多様性や選択肢の拡大といった教育面のメリットがありますが、通学や地域のつながりなどの面で課題があることが分かります。

続いて、どちらともいえないという理由については、「メリット、デメリットが両方あるので判断が難しい」、「資料の説明だけでは決定打に欠ける」というものがありました。そのほかに、「南砺つばき学舎との関係や、改修費や維持費など財政面の問題を考慮して慎重に判断してほしい」という意見もありました。

そして、自由意見としては、「段階的に統合を進めるべきではないか」や、「義務教育学校や統合校の具体的なメリットとデメリットをもっと教えてほしい」という要望もありました。「子ども自身に学校再編について考えてもらい、子どもの意見を各部で共有することが大事」だという意見や、「広報誌などで祖父母世代にも情報を届けてほしい」という意見もあり、学校再編への关心の高さがうかがえます。

ほかにも様々な意見があり、ここでは全て紹介できませんが、保護者が学校統合を真剣に考えていることが読み取れます。

(委員長)

小学校PTAと中学校PTAのアンケートの結果をお知らせいただきましたが、委員ご自身のご意見も交えながら、この場で大いに議論していただきたいと思います。

義務教育学校を設置することは、ただ単に小学校と中学校が一緒になるのではなく、全く別の学校が新設されるということを認識いただきたいです。また、福光地域、福野地域、

井波地域が複数学級を維持できる見込みであるのに対し、城端地域だけが単級で残っていくことについてどうお考えなのか、色々と意見を聞かせていただき、皆さんで議論したいと思います。

(委員A)

県内で様々な学校統合の方向性が示され、色々な議論がされていますが、義務教育学校にするのか、それとも統合するのかという議論をしているのは南砺市だけです。義務教育学校の話はどこの市町村でもありません。それだけ義務教育学校は特殊な考え方であり、義務教育学校を作らなくてはいけないと言っているのは、南砺市ぐらいです。

そして、ほかの市町村では、学校のあり方は市長が決めています。市長が方向性を決め、それに対して我々住民がこのような場で意見を出すというのは非常に大事です。しかし、住民から選ばれた委員が、義務教育学校がよいかそれとも統合したほうがよいかなどと議論をしているところは、ほかの自治体にはないと思います。砺波市の中学校の統合は、住民が決めたのではなく、市長が決めています。南砺市も市長が決めればいいことで、我々がお互いに話し合ったところで、物事はひとつも決まりません。

さて、少なくとも一学年3クラスあるような中学校にすれば、色々な部活が再開できますし、数学や英語の先生も複数人配置でき、若い先生がベテランの先生に教えてもらえるような環境になります。先生方にも優秀な先生を育ててもらう必要があるので、少なくとも3クラス以上あるような中学校を作り、子どもたちがいきいきと学校生活を過ごせるようになればと思います。

(委員I)

今のご意見に少し繋がると思いますが、城端といえども南砺市の一部です。今、福光地域と城端地域が学校統合の検討をそれぞれの地域で進めていますが、いずれは井波地域と福野地域も学校統合を検討することになると思います。何年後かに井波地域が統合に向けた話を始めたときに、選択肢が義務教育学校しかないのではないかという心配があります。

それぞれの地域で話すことは大事ですし、南砺市全域で義務教育学校にするというのも、それはそれでよいですが、統合案も選択肢としてあるならば、南砺市全体で話すことも大事だと考えています。この辺りが心配なところです。

(委員C)

城端さくら保育園でのアンケート結果を最初に説明します。全90ほど家庭のうち、未提出者が16人、計69人に回答いただき、パターン1の「他地域の中学校と統合」が36%、パターン2の「義務教育学校を設置」が56%、どちらでもないが8%となっております。

意見としては、先ほど小学校や中学校で出ていたものとほとんど同じです。おおよそ、通学の安全面についてと、義務教育学校であっても統合であっても、それぞれに学びや成長を促してくれる側面があるのではないかという意見がありました。

皆さん気が気に入っている通学面は、私個人としても気になっています。統合して多様な価

価値が広がるのはよいが通学が気になったり、通学が大変だからという理由で、義務教育学校がよいと答えている人はたくさんいると思います。結局、皆さんのが一番気になるところは通学だと思います。

以前の教育委員会の回答では、「通学距離が一定距離を超える場合は、スクールバスでの対応を想定している。市営バスや城端線の利用も検討範囲に含めるが、原則としてスクールバスでの対応を考えている。運転手不足に関しては、運行業者と協議を進めるなかで十分な対応が取れるように検討を進める」という回答でした。現状、この程度の回答にならざるをえないと思いますが、実際に他地域の中学校と統合した場合、どの程度まで対応できるのでしょうか。蓋を開けてみたら、「スクールバスはこの時間のこの場所からしか出せません」ということになった場合、他地域の中学校との統合じゃないほうがよかったですと思う人がたくさん出てくると思います。

この懸念に対する解決策、すなわち、「この程度の経費がかかるので、この水準までなら対応可能」といったことをある程度明確にしていかないと、不安が残る人は多いと思います。

(委員長)

他地域の中学校と統合した場合に、スクールバスを運行することですが、その運行体制について教育委員会から話せることはありますか。

(事務局)

まだ統合先が分からないので、シミュレーションはできないというのが正直なところです。

しかし、例えば、平・上平地域は非常に広域ですが、全部スクールバスで対応しており、おおよそ集落単位にバス停を作り、そこで乗る形になっています。個人の家の前で乗降というのは当然無理ですが、どのようなルートで回ればよいのかということについては、当然検討します。満遍なく皆さんのが納得いくようにするのは難しいと思いますが、精一杯努力したいという回答しかできないのが現状です。

予算的なことについても、必要な分は当然予算を確保しますので、予算がないからこのエリアは回れないということはありません。

(委員長)

ところで、中学校の体育祭といえば、みんなが燃えて思い出の一つになるわけですが、義務教育学校になったら運動会は2つあるのでしょうか。

(事務局)

1つです。学校行事として、1つの義務教育学校の運動会になります。

(委員長)

小学校1年から中学校3年までの運動会をするということですね。

(事務局)

そのとおりです。

先ほど義務教育学校の話が出ましたが、富山市の水橋地域では、4クラス程度の規模が大きめな義務教育学校ができる予定であり、大人数でも義務教育学校がよいという判断をされています。また、義務教育学校は高岡市にも氷見市にもありますし、南砺つばき学舎には近くの市町村からの視察もあります。

ほかの市町村も義務教育学校を検討していないわけではないと思いますし、義務教育学校を検討しているのは南砺市だけではないことをご理解ください。

(委員長)

義務教育学校という制度は9年前にできたもので、まだ10年も経っていません。義務教育学校のメリットなどの説明がありますが、南砺つばき学舎でも、9年間在籍して卒業した子どもはまだ一人もいないので、途中経過のようなイメージです。ただ実際に義務教育学校として動いていますから、そのなかでメリットやデメリットの話はできると思います。

(委員C)

先ほど、スクールバスが全家庭を回るのは無理だという話がありました。しかし、それが無理なのかどうか、どの範囲までが無理でどの範囲までなら可能なのかさえ、私たちは分かっていません。皆さんはその点を不安に感じられていると思います。

当然、色々なメリットやデメリットがあり、生徒にとってどれがよいのか悪いのかは人それぞれなので、単純に課題に対してどれだけフォローができるのかが気になります。通学もそうですが、ほかにも、いじめが起きたときに教職員がどれだけフォローができるのかということもあります。答えは出ないと思いますが、予算の都合もあるなかで、よりどちらが南砺市として、そして教育委員会としてフォローできるのかが気になるところです。

今のところ、我々は、「解決に向けて頑張る」ということしか理解できていないので、どちらの統合案のほうがフォローしやすいのかと考えたりもしますが、いかがでしょうか。

(委員A)

先ほど、県内で4クラスもあるような学校で義務教育学校を設置したという事例を言われましたが、それは、校舎が一つで済むという公共施設再編の観点と、校長が1人になることによって人件費が抑えられるという観点から設置したのでしょうか。4クラスもあるならば、義務教育学校にせずとも小中一貫校にすればよいと思います。義務教育学校にするメリットが分かりません。

(教育長)

少なくとも校長は一人になりますが、どのような理由で義務教育学校を選択されたかは、ほかの市町村のことなので分かりません。

また、先ほどのスクールバスのことは、今の小学校のスクールバスの運行形態と似たもの

になると考えます。しかし、学校のあり方案の検討に当たっては、スクールバスを基準にするのではなく、子どもたちの教育環境としてどちらがよいかという観点で、結論を出していただければありがたいです。

(委員長)

教育委員のときに、他市の義務教育学校を見学しました。その義務教育学校では、小学5年までで一つ、小学6年と中学1年を合わせて一つ、中学2年と3年を合わせて一つの計3つの課程でした。南砺市の場合は、そのような課程を組んでいないですね。

(教育長)

それぞれの学校が考えた結果、小学1年から小学6年まで一つの課程、中学1年から中学3年まで一つの課程となっています。それは各学校に任せていて、市で決めたわけではありません。課程の組み方に決まったものはありませんし、途中で変更される場合もあると思います。

(委員長)

例えば、小学6年と中学1年を合わせて一つの課程にすることもできるということですね。

(教育長)

はい。例えば、他自治体の義務教育学校では、当初は小学6年と中学1年を合わせた課程としていましたが、都合が悪いということで、南砺市の課程と同じにされたというケースもありました。

(委員長)

同じ学校のなかで、小学5年までをひとまとまりにして5年生が小学校の児童会でもリーダーになったり、小学6年と中学1年をひとかたまりにして中1ギャップをなくしたりといったことが、義務教育学校になるとできるのですね。

(教育長)

そのような工夫をする自由度が大きくなります。ただし、全体の先生の数がたくさん増えるということはありません。

(委員A)

義務教育学校では、小学校の先生が中学校に教えに行くことや、中学校の先生が小学校で教えることはできますか。

(委員長)

免許が違うため、できません。

(委員A)

小学校と中学校の両方の免許を持っているならともかく、中学校の免許しかない先生は、小学校では教えられないですよね。義務教育学校にしたら、多少は教えられるということにはならないですよね。

(教育長)

義務教育学校だからできるわけではありません。中学校の免許だけで小学校の授業ができるものもありますが、教科によって国が決めているルールに従っています。

先ほどのいじめの件については、どの学校も一生懸命いじめ対策には取り組んでいますが、小規模校のほうが子どもの人数のわりに先生が多いので、複数の目で見られるという点はあるかもしれません。

(副委員長)

保育園、小学校、中学校の保護者のご意見をご報告をいただきましたが、小・中学校に通っている児童生徒の意見を聞かせていただけますか。

(オブザーバーA)

7月末にアンケートを取りました。全校児童257人のうち、248人から回答がありました。義務教育学校がよいと回答した児童が185人、小学校はそのままで中学校は他地域と統合がよいと回答した児童が63人でした。

義務教育学校がよいと答えた児童の多かった意見としては、「兄弟姉妹はじめ、よく知った子どもたちと長く一緒に学校生活が送れる」、「自転車で通える」、「遠くなると通学の負担が増える」などがありました。一方で、小学校を残して中学校は他地域と統合を選んだ理由としては、「中学校では違う地域の人と関わりたい」、「部活動の種類が増えて選択肢が多くなる」という意見が多かったです。

(オブザーバーB)

中学校では、まず最初にほとんど知識や議論のない状態で、1学期にアンケートを取りました。その時は義務教育学校がよいという生徒が62%、福光地域の中学校と統合がよいという生徒が33%という結果でした。

さて、総合的な学習のなかで、学校の統合について調べたいという3年生のグループがあります。そのグループは、城端さくら保育園で行われた地域説明会にも参加しましたし、南砺つばき学舎の一日見学もしています。そのグループが先日、自分たちの意見を話してアンケートを取ったところ、別の意見に傾いたり、考え直したということで、結果は五分五分になりました。

ただ、回答の内容をよく見てみると、福光地域の中学校と統合がよいと言った生徒の9割が「通学が不安」だと記していました。現在の城端地域の冬のスクールバスは、中学校に到着するまで一番時間がかかるケースで40分かかります。それが、城端から福光地域の中學

校に行くとなれば、一番早い子で朝7時にはスクールバスに乗ることになると思います。そのことを生徒たちはよく考えていないかもしれません。

生徒たちの考えには色々な部分で浅いところがあります。規模が大きい学校に行きたいという生徒のなかには、「部活動の選択が広がって自由に活動が選べる」と記した者もいますが、皆さんご存じのとおり、部活動は地域展開されます。少し考えたら分かると思いますが、部活動をするときは、一回家に帰ってから、夜7時にクラブ活動に出ることになります。それが大変になるかもしれないというイメージが薄いようです。

このアンケートを見た教員のなかでも、まだ考えが浅いところがあるということで、この後も継続して議論が必要だと感じている者もいます。規模が大きい学校に行きたかったり、義務教育学校に行きたいのであれば、特認校制度で福野に行くことも井口に行くこともできるわけで、各案のメリットやデメリットを踏まえ、子どもたちももう少し議論がしたいと言っているところです。

(委員I)

部活動の地域移行に関連しますが、例えば、他地域の中学校と統合した場合、クラブチームの練習が夜7時からだとしたら、午後4時頃に授業が終わった後に、いったん家に帰るのか、それとも、統合先の中学校に待機する場所があり、時間になつたらクラブチームの練習場所までスクールバスで移動するのかということも考える必要があると思いました。

(オブザーバーB)

クラブの練習のために、帰りのスクールバスの発車時刻を遅らせることはないと思っています。夜7時まで学校で待機せざるとなると、学校としては難しいかもしれません。

(委員長)

授業時間は、小学校は45分で中学校は50分授業ですが、南砺つばき学舎や利賀学舎はどうなっていますか。

(教育長)

現在は、前期課程が45分、後期課程が50分です。

(委員長)

中学校が小学校に合わせて45分授業にすると、1日の授業時間が30分短くなるので、勉強は大丈夫なのかと思いましたが、後期課程は45分授業にはなっていないということですね。

(委員K)

通学のことは色々と問題があると思います。前回の検討委員会でも発言しましたが、雨や雪が降ったりすると、中学校付近は保護者の車で渋滞します。実際問題として、城端の子ど

もたちが福光地域に通学するとなれば、忙しい時間帯に保護者が送迎できるのか疑問です。

それから、不登校も増えています。学校に行きたくなくて、給食だけ食べにいく子どもや、部活動だけに行く子どももいると聞いています。そうした子どもたちがスクールバスで福光地域まで通学できるかというと、そうではないと思います。このようなことを考えたときにも、本当にスクールバスの通学でよいのかとも思います。

それと、身内の者がスクールバスで小学校に通っていますが、30分ほどかかると言っていました。歩いていくのとそんなに変わらない時間です。これを踏まえると、スクールバスを出して他地域の中学校に行くことが現実的かというと、非常に疑問です。「これならば、城端に中学校があったほうがよかった」ということになりかねないと思うので、よく検討いただきたいと思います。

(委員H)

通学の面に対して不安な保護者さんがいらっしゃるように、通学のイメージがしづらいです。子どもたちの点に関していえば、友だちのことや、色々なことが経験できるといった面もありますが、やはり、他地域と統合した場合や義務教育学校になった場合に、通学がどうなるのかイメージできていない現状があると思います。

私の子どもたちはスクールバスを使用したことがありませんが、学校に着くまで30分かかり、スクールバスの中で寝てしまうという話も聞きます。今、スクールバスは3系統ありますが、それでも通学時間が長い子どもで30分から40分かかります。小・中学校で同じスクールバスを利用して停まる箇所も増えれば、更にバスに乗っている時間も増えると思います。中学校に関しては、現状は冬季のみスクールバスが出ていますが、夏場のルートと冬場のルートで乗る子が変わるので、そのような変化にも対応していただけるのでしょうか。

また、中学校に関しては、朝や夕方の送迎の時間帯は、本当に狭い入口を車と生徒たちが通るので混みあいます。自転車通学をしている生徒も、雨の日は車で送迎という場合もたくさんあるので、荒天の日は余計に自家用車が増えます。今日は雨だから帰りはスクールバスに乗るといったことができれば、親御さんの送迎も楽になると思いました。

市内で義務教育学校になった学校の通学方法や、通学に要する時間を知りたいです。

(委員A)

城端と福光の中間点あたりに、新しくて規模の大きい学校を新設するという発想は南砺市や教育委員会にあるのでしょうか。

新しい校舎を建てないことを前提に物事を議論すると、通学が大変だという話になります。両地域の中間ぐらいのところに新しい校舎を建てれば、中学生の通学に関する議論はかなり緩和されるのではないかと思います。

(委員長)

新しい校舎は作りません。このことは、南砺市立学校のあり方検討委員会で決めています。

(事務局)

義務教育学校になってスクールバスがどのように変わったかという質問ですが、まず、南砺つばき学舎は、もともと小学校も中学校も同じような場所にあったので、通学の形態は変わっていません。利賀学舎も、小学校も中学校も同じ場所にありましたので、こちらも通学の形態は変わっていません。

もし、城端地域が義務教育学校を選択されれば、中学生と小学生の通学は現在と大きく変わらないと思います。ただ、他地域の中学校と統合を選ばれた場合は、スクールバスで通学することになると思います。

(委員G)

小学校と同じスクールバスを使うことになりますか。

(事務局)

いいえ。ルートや時間帯も違うので、足りない分は当然増やすことになります。

(委員長)

もし、城端に義務教育学校を設置するとなれば、改修などで億単位のお金をかけることになると思います。義務教育学校を一度建ててしまえば、途中で規模の大きい学校に行きたくなつたとしても、それができなくなることを心配しています。5年ぐらいで「義務教育学校ではなくてもよい」となった場合、それは負の遺産になります。後の世代の子どもが、福光や福野、井波に行きたいと言っても、スクールバスはなく、家庭の責任で3年間送迎をしないといけません。

いずれにしても、10年後ぐらいには、市全体で一つに統合にするという話も出ています。

(教育長)

10年後ぐらいには、そのような話が出てくるかもしれません。ただ、一つに統合したほうがよいのか、それとも規模が小さい学校のほうがよいのかは、そのときの教育状況によって変わってきます。だから、今、学校のあり方を決め打ちするというのは、いかがなものかと思っています。

10年後ぐらいに南砺市全体を視野に入れた統合を考え、20年後にはそのような選択肢も出てくるだろうと思っています。ただ、今の段階で南砺市全体での学校のあり方の方針を決めてしまい、20年後には必ず一つにすると責任をもって言える状況ではありません。そのときの保護者が決めればよいと考えます。

(委員E)

他地域の中学校との統合は「変化する」、義務教育学校は「変化しない」というわけですが、他地域の中学校と統合することは、子どもが城端地域から福光地域に行くという「変化」だと思います。この変化について、どのように変化するのか全く分かりません。

先ほどからの通学面もそうですが、我々保護者としても、どのような生活リズムになるのか分かりません。各保育園、小・中学校でヒアリングして、結果的に義務教育学校を設置するという意見が多かったわけですが、ただ純粹に分からぬということで、他地域の中学校との統合を敬遠していると思います。子どもたちにどうなってほしいとか、子どもたちにとってどうあるべきかということをイメージするよりも前に、「変化が分からない」というネックが頭をよぎるので、他地域の中学校との統合を選べないのだと思います。

前回の検討委員会では、私は義務教育学校がよいと申し上げました。しかし、心の中では、子どもは多くの子どもと接するべきだし、スケールメリットや、社会には色々な人がいることを考えると、早いうちに多人数の環境に慣れていくほうが絶対によいと考えています。ただ、私自身も変化することへの過程が全く見えないので、やはり義務教育学校を設置するという案を選んでしまいます。以前には、「城端が大好きなので城端にいたらいいじゃないか。同級生が10人、20人ぐらいであっても、子どもたちは自分たちで何とかするだろうと心の中では思っているので、義務教育学校を設置するほうがよいのではないか」という話もしています。

要するに、検討委員会に参加して協議している私でさえ、今の情報だと自分の意見をまとめることができません。そろそろ次のフェーズに進まないといけないと思いますが、他地域の中学校と統合になった場合、交通面等がどのように変化するかを具体的なところまで話を落とし込んだ上で皆さんに提示しないと、浅いところで考えが止まります。今は、子どもと親の考えが同じレベルだと思います。私も親なので、子どもが福光地域の中学校に通うとして、子どもが体調を崩したときに迎えをお願いされれば、福光まで行かなくてはいけないのかという気持ちになりますし、朝早く起こして準備させないといけないとか、すごく浅いところで嫌だなという感情が出てきます。それに対し、どのように対応できるのかを例示しないと、次のステップには全然進めないとします。

子どもの未来といっても、何やかんやで子どもは勝手に育つと思っていますので、大事なのは地域性だと思います。城端地域や南砺市という地域が子どもを育てますので、このような教育環境であればこのような子どもが育つといった観点よりも、地域としてちゃんと子どもを見られるということが大事だと考えます。

他地域の中学校と統合しようが、義務教育学校だろうが、正直あまり変わらないと思います。義務教育学校のカリキュラムの話もよく出ていますが、誰もそこに着目する段階にいていないので、そこに至るところまでの議論をするための情報を増やすべきだと思います。このままだと、この検討委員会ですら意見はまとまらないと思います。

(委員A)

部活動の地域移行のことで思うのですが、そもそも中学校には部活動という考え方がなくなると思います。中学校で競技を続けたい場合は、地域移行した野球クラブやソフトテニスクラブや卓球クラブに入り、面倒でも夜7時に家族が送迎することになりことになります。

学校に部活動が存続することは難しいので、委員の皆さんには、学校に部活を求めるのはやめるべきです。

(教育長)

色々な話が出てきましたが、城端地区の中学生を同じ校区でそのまま育てるほうがよいのか、規模が大きい集団のなかに入ったほうが子どもにとって幸せなのか、この一点で考えていただきたいです。

(委員長)

私が最も心配しているのは、一学年に20～30人の単級の状態で、同じ子どもたちで9年間ずっと過ごせるかということです。

今の子どもたちは非常に多様性があり、ある意味で個性化しています。子ども同士のトラブルが起きた場合、2、3クラスあればクラス替えをして対応できます。しかし、単級の場合、一度人間関係が崩れたら9年間も過ごすことができないので、転校していくようなことがあるかもしれません。単級で少人数だと、みんなが仲良くてよいイメージがあるかもしれませんが、必ずトラブルもありますし、うまく合わない子どもが出てくることもありうることです。このようなことを含め、検討していただきたいと思っています。

(委員G)

冒頭でアンケート結果を説明しましたが、「義務教育学校を選んだ人は、「他地域との統合がどのような形になるか分からぬから」という理由で、消極的に選んだケースが大多数でした。逆に、他地域との統合を選んだ人は、「統合したほうが人数が増え、将来性もある」といった形で、積極的に賛成して選んでいると思います。そのため、このアンケート結果だけでは、どちらに手を挙げればよいのか判断がつかないのが正直なところです。

去年生まれた子どもの数は160人程度しかなく、城端に至っては19人しかいません。10年ほど前と比較すると半数以下になっています。そうならば、10年後に城端地域で生まれる子どもの数が9人や10人だという可能性もあります。南砺市全体でも一年に80人程度しか生まれないということになれば、地域ごとで中学校について話し合うような時代ではなくなると思います。

ですので、5年後や10年後などの、将来的な南砺市全体での学校のあり方の方向性の道筋をつけてもらわないと、今協議している城端地域の学校のあり方も決められないと思います。もし、5年後や10年後に、市全体で一つの統合中学校を設置すると言われたら、義務教育学校にすれば、9年間の教育課程が決まってしまうわけですので、今の城端小学校と城端中学校の形態を残したままでよいかもしれません。今の段階でもう一度立ち止まり、南砺市全体での学校の方向性がどうなるのか確認した上で、判断したいと思います。

(委員長)

南砺市全体の方向性が分からなければ、この検討委員会でも決められないということでしょうか。

(委員G)

20年後に南砺市全体で中学校を統合すると言われば、さすがにそこまでは待てないので、どちらかの統合パターンに手を挙げてよいと思います。しかし、もしかしたら5年後か10年後に南砺市全体で中学校を統合するかもしれないという状況ならば、現状を維持し、今の年少世代から南砺市全体の統合中学校に入学するという選択もあると思っています。

(委員長)

色々と意見の相違はありますが、子どものためにどの選択肢がよいのか議論を尽くし、みなさん納得された上で、最後は決めないといけないと思います。

ただ、今日この場で多数決を取るのは少し怖いので、私としては、今日発表されたアンケート結果や議論の内容をもう一度各団体に持ち帰っていただき、ご意見を聞いた上で、次の検討委員会で結論を出したいと思っています。

(副委員長)

通学面での不安に対して教育委員会から回答をいただき、筋道を立てておかないと、次の検討委員会で集まても、話が進まないと思います。

(教育長)

例として、「仮に福光地域の中学校に統合した場合、このような通学になります」といったシミュレーションの資料は出せると思います。

ただ、教育委員会の思いとしては、親の負担が大きいから義務教育学校でよいのではなく、子どもを城端地域で9年間育てたいのか、それとも、城端で6年間育てた後は規模の大きな集団で育てばよいのか、どちらが本当に子どもにとってよいのかを軸にご意見をまとめていただきたいと思います。

(委員長)

通学の問題、特に、スクールバスがどのような運行体制なのかイメージができないという意見が出ています。事務局で通学に関するシミュレーション資料を作成し、委員の皆さんにお示しした上で、次回の検討委員会で最終的に決めたいと思います。

(委員A)

福光地域での学校統合の議論のなかで、スクールバスについて何か意見は出ていますか。

(教育長)

福光地域は統合校の使用する校舎が決まってから話し合うことになっています。

教育委員会としては、子どもたちにとってどのような環境がよいのかという一点で、議論いただきたいと思います。

(委員C)

おっしゃることは非常によく分かりますが、おそらく、どちらの統合案が子どもにとってよいのかは、議論しても答えが出ないと思います。その子にとっての向き不向きという話ですし、大人になってどちらの統合案がよかつたと思うのかも、人によって違うでしょう。議論の余地がないというか、我々がまとめるというのは、もはや不可能な気がします。

だからこそ、財政的なシミュレーションも組まれていると思うので、各統合パターンに対してどの程度フォローできるというものがないと、答えが出せません。

(教育長)

全校分はできませんが、スクールバスのシミュレーションをお示しするということは、承知しました。

(委員長)

シミュレーションの資料を早めに各委員に送っていただき、各団体で意見をお聞きし、次の検討委員会を開催できればと思います。

(委員E)

すごく短絡的な言い方になりますが、他地域の中学校と統合してよくなるのであれば、他地域の中学校と統合したほうがよいし、他地域の中学校と統合してよくならないのであれば、義務教育学校を設置すればよいと思います。

結局、子どもがどうあるべきかは判断できないので、「よくなる」ということについて、スクールバスや財政面など、多角的に判断しないといけないと思います。例えば、通学時間が長いことは、子どもにとってはよい状態ではないので、それであれば、他地域の中学校に統合するのはやめたほうがよい。どの程度まで平等に網羅してシミュレーションできるかだと思いますが、それでわけが分からぬという状態になるのであれば、個人的には変化しないほうがよいと思います。

そして、この検討委員会をひっくり返すような話になりますが、もし、まとまらないのであれば、市長に判断を委ねるという結論を出してもよいと思います。次回の検討委員会でしっかりと色々な情報が出て、委員会として結論が出せる方向になればよいのですが、やはり我々に見えない部分がたくさんあると思います。結局、教育というものは、お金、リソース、周辺環境などの色々なものに支えられていて、一部だけを見ても、絶対にしっかりとした結論にならないと思います。そのような点でいえば、市長や市の幹部の方は教育を全体的に把握されています。ここで混沌とした議論になってしまふのであれば、また、次の検討委員会も議論がこのレベルで止まってしまうようであれば、個人的には、市長や上層部の方に判断を任せるというのも無きにしも非ずだと思います。

(委員F)

中学校を他地域と統合するとなった場合、統合するという方向性が決まってから、他地域

に対して統合の話を持ちかけるという認識です。しかし、いざ統合の話合いをするとなれば、もちろん他地域の皆さんのお気持ちもありますので、城端には来てほしくないという方も一定数いると思います。逆に、城端地域の人にも行きたい地域や行きたくない地域があったりと、色々な意見が出てくると思います。

そうなると、どこが主導となって折衝を行い、最終的に判断する権利はどこが持つのかということに対して不安を覚えます。他地域と統合という形に決めて進めていったものの、揉めてしまい、どうにもこうにもいかなくなることも想定できると思います。仮に他地域の中学校と統合するとなったら、どのような形で地域の選定や折衝を行っていくのかについて、現状で、教育委員会で何らかのビジョンがあるのか教えていただきたいです。

(教育長)

城端地域がどの中学校と統合したいかによります。それが決まってから、その地域にお願いすることになります。

(委員F)

仮に、この委員会で「福光地域の吉江中学校と統合したい」という意見でまとまったとしたら、どうなりますか。

(教育長)

福光地域が吉江中学校を選ばれるかどうか分かりませんが、教育委員会が福光地域の学校統合検討委員会に話をします。

(委員F)

教育委員会から福光の検討委員会に話をした後は、福光と城端の両者で協議する形になりますか。話合いをしてみて、統合の提案を受けてくださるか、また、それに対してどれぐらいの準備が必要でどれぐらいの期間がかかるかは、協議してみないと分からないということですか。

(教育長)

まだそこまで具体的には考えていません。

(委員F)

実際に協議してみないと分からないということですね。そうなると、個人的には、やはり判断できないと思います。

子どものことを第一に考えて判断することは重々承知していますし、私もそう思います。ただ、この確認を含め、子どもたちのことを思って考えていますし、決して通学が保護者の負担だという観点だけで見ているわけではないということも、ご理解いただければと思います。

(委員 J)

小中一貫校や義務教育学校などの色々な学校を見てきましたが、このような見方もあるということでお判断材料にしていただければと思います。

中1ギャップ、要は中学1年になって不登校になってしまうのをどのように防ぐかというところで、小中一貫校や義務教育学校というものがあります。義務教育学校を見ていると、1年生から9年生の子どもたちが、上級生は上級生として小さい子の面倒を見て、小さい子は上級生を目標にして過ごすという、素晴らしい利点があると感じました。

また、小さな学校ではありますが、最近はテレビを使って他校とタイムリーに繋がれるので、少人数の意見に固まるということはないと思います。例えば、南砺つばき学舎であれば、オンラインで利賀学舎と一つのテーマについて話し合ったり、オーストラリアの子どもたちと話し合うこともできます。このような点から言えば、少人数の学校が悪いと決めつけるのはいかがなものかと思います。

また、南砺市の場合は特認校制度があるので、居住地域によって必ずこの学校に通わなければいけないということはありません。逆に、特認校制度を使って南砺つばき学舎に来ている人もいます。そういう見方を入れながら、義務教育学校等の判断をしていただけたらと思っています。これは、城端中学校が他地域の中学校と統合するのが悪いと言っているわけではなく、義務教育学校のあり方には、このような視点もあるということです。

もう一つは、お祭りです。他自治体の事例ですが、合併前の他自治体の中学校に統合したものの、自分たちの地域の祭りや伝統文化のことをなかなか主張できず、困っているという話もありました。ふるさと教育という点からも、いかがなものかという考えもあります。

やはり、よい部分と悪い部分は必ずセットでついてきます。色々な角度の見方で変わってくることですから、それを考慮しながら城端の子どもたち、自分たちの子どもたちにとって、何を選択するのがベターなのか、ベストなのかを慎重に検討していく必要があると思います。

いずれにしても、親御さんやこれから育っていく世代が直面する問題ですので、みなさんで色々な意見を出し合い、よい形になればと思います。

(委員長)

今日の検討委員会は、結論を出すよりも、議論のなかでスクールバスの時間の問題等が出てきました。事務局で通学に関するシミュレーションの資料を作って委員の皆さんに送付し、ご意見をお聞きしてから、もう一度検討委員会を開催するということで進めたいと思います。

それでは、今日の議論はここまでとします。

5 その他

特になし

6 次回委員会の日程

(事務局)

通学に関するシミュレーションの資料を送付してから1か月程度期間を置き、次回の委員会を開催したいと思います。11月の中・下旬頃を予定しています。

7 副委員長挨拶

(副委員長)

長時間に渡ってご審議いただき、ありがとうございました。また、本日の第3回あり方検討委員会を開催するに当たり、各種団体の皆様におかれましては、保護者や児童生徒にヒアリング、そしてご報告いただき、ありがとうございました。

お聞きした限りでは、不安要素がたくさんあるということで、なかなか簡単に結論が出せないということだと思います。しかし、この先の子どもの数がどんどん少なくなっていくのは分かっていることです。子どものことを最優先に考え、どのような形を持っていくのかを検討委員の皆さん、そして教育委員会の皆さん、そして学校の先生や園長先生と一緒に慎重に考えていくたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。